広報 やすぎ 令和5年10月号

まちのタカラ

赤江地区のイチオシ！

愛称で親しまれる「ぶり山」
～標高約43mの武嶺（ぶれい）山～

▲令和４年度のあかえふれあいウォーキング大会でぶり山を歩く参加者。令和５年度は10月29日開催予定で、それに先立ち同月21日には環境整備の実施を予定しています。
◀遮るものがなく、低くても四方からよく見えるぶり山。

地域の大部分が飯梨川の流れによって運ばれた土砂で形成された赤江地区。特に、見渡す限り平地が続く赤江町には、標高が低いながらも存在する山があります。

名前は武嶺山。詳細は不明ながら中世には武嶺山城があり、赤江郷土史によると明治時代には花見の宴席場として、現在でも赤江八幡宮の鎮守の森として、地元住民からは「ぶり山」の愛称で親しまれている山です。

「赤江地区青少年健全育成協議会」では、活動の一環として、ぶり山の環境整備活動などを行っています。きっかけは、赤江地区健康会議内の親子健康部会で「子どもたちが家でゲームばかりしている」「外に遊び場が少ない」という話があったことです。そこで、協議会の三島静夫会長が中心となり、40年ほど前までは子どもたちの遊び場だったぶり山を整備・活用していくこととなりました。

整備されたぶり山は、毎年10月頃に行われる「あかえふれあいウォーキング大会」のルートに組み込まれ、住民が楽しげに会話しながら通過していく姿が見られています。

三島会長は「小さなぶり山でも、歩きなれていない子どもたちは、下り坂などで難儀していました。歩きやすくしつつも山道らしさは残し、自然を歩く経験を積んでほしいです」とぶり山の整備方針について語りました。

編集後記

▼取材で月山富田城跡の頂上まで登る機会がありました。30度を超す暑さの中、何度も足を止めて休憩しながら何とか到着。そんな中、高校生は重い機材を背負いながら2往復の運搬をこなし、体力の差を痛感しました。ヘトヘトになりましたが、相変わらず頂上からの眺めは最高で、登った甲斐がありました（け）

▼「ペットボトルロケットのときぶりですね」、鉄穴（かんな）流し体験学習の取材の際に、声をかけてもらい話が盛り上がりました。少し前には、中学生時代の恩師に再会したことも。広報の担当となり、安来中を動き回っていると思いがけない出会いがあり、日々驚きや発見にあふれているなと感じる今日この頃です（岩）

安来市の人口と世帯数　R5.8.31現在

人口合計／　35,965人
（男:17,315人　女:18,650人）
世帯数／14,257世帯

●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
●自治会宛の発送等については、地域振興課（☎23-3067）までご連絡ください。

秘書広報課編集／安来市役所
〒692-8686島根県安来市安来町878-2　電話:23-3010 / FAX:23-3161
ホームページhttps://www.city.yasugi.shimane.jp
メール:hisho@city.yasugi.shimane.jp